

I 「安全」への取組

(1) 生産から流通・販売まで全ての過程にHACCPの考え方に基づく衛生管理の普及推進 ～生産過程における自主衛生管理の推進（農産物）～

実施する取組	担当課室	平成29年度取り組み状況 (取組目標を設定したものは自己評価内容)	達成度 (自己評価)
① 農薬の適正な使用を推進します。	農業環境・鳥獣害対策室	農薬取扱業者の資質向上を図り、農薬安全使用を推進するため、指導者に対する研修を3回実施した。 「農業管理指導士」は計135人(うち新規認定は13人、アドバイザーへの移行は13人、資格消滅は11人で前年より全体で10人減少)、「農業アドバイザー」は新たに13人を認定し、累計259人となった。	概ね達成
② 肥料等の適正な使用を推進します。	農業環境・鳥獣害対策室	農業技術指導者(JA、県)及び肥料製造・販売業者等を対象とした「土づくり研修会」を開催した。 肥料製造会社の専門員を講師に招き、土壌の物理性向上について研修を行い、参加者の資質向上による肥料の適正使用を推進した。	概ね達成
③ 国のガイドラインに準拠したGAPを推進し、安全・安心な農作物の供給と環境にやさしい持続的農業を目指します。	農業環境・鳥獣害対策室	GAP指導者を育成するため、外部講師を招いて振興局農業水産振興課職員及びJA営農指導員を対象とした指導者養成研修を実施した。	未達成
④ 適正な農業生産の実践と、収穫前及び出荷段階の残留農薬検査に取り組む生産者団体等を「わかやま農産物安心プラス認証制度」で認証します。	農業環境・鳥獣害対策室	13団体、31品目を対象とした取組を認証し、出荷段階における524検体の農薬残留検査を支援した。 検査品目の内訳は野菜19品目、果樹11品目及びび米であった。	達成

目標管理項目		29年度	30年度	31年度	平成30年度取り組み予定
① 「農業管理指導士」及び「農業アドバイザー」認定者数(累計)	目標値	—	—	405人	今後も引き続き研修会を実施し、「農業管理指導士」及び「農業アドバイザー」のさらなる認定を目指すとともに、指導者の資質向上を図る。
	実績値	394人			
② 研修会の参加人数	目標値	—	—	80人	引き続き同研修会を開催し、肥料の適正な使用を推進する。振興局農林水産振興部及び関係団体と連携し、出席者の更なる掘り起こしを行う。
	実績値	64人			
③ 国際水準GAPに関する研修を受講する指導者数(累計)	目標値	—	—	45人	農業者のGAP取組の推進と指導者の育成のため、研修会を年2回程度開催予定。
	実績値	20人			
④ 認証品目数	目標値	—	—	31品目	13団体、31品目を対象とした取組を認証し、出荷段階における470検体の農薬残留検査を支援する予定。
	実績値	31品目			

(1) 生産から流通・販売までの全ての過程においてHACCPの考え方に基づく衛生管理の普及推進 ～生産過程における自主衛生管理の推進（畜産物）～

実施する取組	担当課室	平成29年度取り組み状況 (取組目標を設定したものは自己評価内容)	達成度 (自己評価)
⑤ 飼養家畜への飼料・飼料添加物・動物用医薬品の適正な使用等を指導します。	畜産課	畜産農家(122戸)に対して動物用医薬品、飼料、飼料添加物使用時の記帳状況等について、調査・指導を実施した。	達成
⑥ 薬剤耐性菌の発現状況を調査します。	畜産課	牛・豚・鶏のサンプルを採取。黄色ブドウ球菌を分離し、抗菌性薬剤10種に対する耐性状況を調査。	達成
⑦ 和歌山県生鮮食品生産衛生管理システム認証制度の認証取得を推進します。(養鶏場等)	食品・生活衛生課	採卵鶏を飼養している養鶏場を訪問し、認証制度の説明を行い、認証取得に向けて事業者の自主的な衛生管理を推進するために、助言・指導を行った。	未達成

目標管理項目		29年度	30年度	31年度	平成30年度取り組み予定
⑤ 県内飼養家畜農家の指導割合	目標値	—	—	100%	引き続き、動物用医薬品、飼料、飼料添加物使用時の記帳状況等について、調査・指導を行う。
	実績値	100%			
⑥ 発現状況調査件数	目標値	—	—	16件	平成30年度も引き続き、サルモネラ及び黄色ブドウ球菌の抗菌性薬剤に対する耐性状況の調査を行う。
	実績値	20件			
⑦ 認証数(累計)	目標値	—	—	8施設	引き続き、対象養鶏場に対して衛生管理の助言・指導を行い、認証取得を促していく。
	実績値	4施設			

(1) 生産から流通・販売までの全ての過程においてHACCPの考え方に基づく衛生管理の普及推進
 ～生産過程における自主衛生管理の推進（水産物）～

実施する取組	担当課室	平成29年度取り組み状況 (取組目標を設定したものは自己評価内容)	達成度 (自己評価)
⑧ 養殖業者に対して、水産用医薬品の適正使用の徹底と投薬記録を指導します。	水産試験場	【海面】巡回指導戸数(割合):35/35戸(100%) 【内水面】巡回指導戸数(割合):20/20戸(100%) 定期的に県内養殖場を巡回し、水産用医薬品の適正使用指導および投薬記録簿の点検を実施した。	達成
⑨ 養殖魚類の水産用医薬品残留実態調査を行います。	水産試験場	【海面】養殖マダイ成魚筋肉中の薬剤残留検査:10検体 【内水面】養殖アユ成魚筋肉中の薬剤残留検査:10検体 養殖マダイ成魚および養殖アユ成魚について、筋肉中の薬剤残留検査を行ったが、検出されなかった。	達成
10 二枚貝の安全性確保のため貝毒検査を実施し、規制値を超えた場合は出荷自主規制を指導します。	資源管理課	県内5カ所で採集した二枚貝天然4種、養殖3種について麻痺性貝毒34検体と下痢性貝毒2検体を検査した。29年4月と30年2月、3月に規制値を超える麻痺性貝毒が検出されたためすみやかに採捕・出荷自主規制措置をとった。	(達成)
⑪ 養殖衛生対策会議を開催し、養殖業者への魚病対策等について情報提供を行います。	水産試験場	【海面】 ・平成29年11月24日開催 参加人数:52人 養殖衛生対策会議を開催し、養殖業者に対して、魚病対策、水産用医薬品適正使用および水産用抗菌剤使用指導書に関する新たな制度について情報提供を行った。 【内水面】 ・平成29年11月20日開催 参加人数:19人 養殖衛生対策会議を開催し、養殖業者に対して、魚病対策、水産用医薬品適正使用および水産用抗菌剤使用指導書に関する新たな制度について情報提供を行った。	達成
12 魚病検査を行い、養殖場における魚病の発生予防やまん延を防止します。	水産試験場	【水産試験場】魚病検査件数:105件 【内水面試験地】魚病検査件数:21件 養殖業者から持ち込まれた病魚や巡回指導時に採取した病魚の検査を行うとともに、魚病対策指導を実施した。	(達成)
⑬ 和歌山県生鮮食品生産衛生管理システム認証制度の認証取得を推進します。(養殖場)	食品・生活衛生課	養殖マダイ区分において認証を希望する施設に指導を行った結果、2施設が新たに認証を取得した。また、養殖クエ区分及び養殖クロマグロ区分において認証取得を希望する施設に対して指導を行っている。	未達成

目標管理項目		29年度	30年度	31年度	平成30年度取り組み予定
⑧ 養殖衛生管理指導割合	目標値	—	—	100%	今後も引き続き、定期的に県内養殖場を巡回し、水産用医薬品の適正使用指導および投薬記録簿の点検を実施する。
	実績値	100%			
⑨ 残留調査検体数	目標値	—	—	20検体	今後も引き続き、養殖マダイ成魚および養殖アユ成魚について、筋肉中の薬剤残留検査を行う。
	実績値	20検体			
10 迅速な指導と情報提供	目標値				引き続き標記検査を実施し、食の安全を確保していく。
	実績値				
⑪ 衛生対策会議の参加人数	目標値	—	—	45人	今後も引き続き、養殖衛生対策会議を開催し、養殖業者に対して、魚病対策および水産用医薬品適正使用について情報提供を行う。
	実績値	71人			
12 魚病被害の軽減	目標値				今後も引き続き、養殖衛生対策会議を開催し、養殖業者に対して、魚病対策および水産用医薬品適正使用について情報提供を行う。
	実績値				
⑬ 認証数(累計)	目標値	—	—	8施設	引き続き、対象施設に対して衛生管理の助言・指導を行い、認証取得を促していく。
	実績値	6施設			

**(1) 生産から流通・販売までの全ての過程においてHACCPの考え方に基づく衛生管理の普及推進
～製造・加工・流通・販売過程における自主衛生管理の推進～**

実施する取組	担当課室	平成29年度取り組み状況 (取組目標を設定したものは自己評価内容)	達成度 (自己評価)
⑭ 和歌山県食品衛生管理認定制度への取組を推進します。	食品・生活衛生課	講習会開催や施設訪問、営業許可更新等の際に制度の啓発を行い取組を推進した。	未達成
⑮ HACCPの考え方を取り入れた自主衛生管理を普及推進します。	食品・生活衛生課	食品事業者を中心に、HACCPの考え方に基づく衛生管理に係る講習会を実施した。	概ね達成
⑯ HACCPの指導・助言を行う食品衛生監視員を養成します。	食品・生活衛生課	平成30年2～3月にかけて食品衛生監視員を対象にHACCPシステムに係る研修会を開催。研修修了者10名を対米、対EU指名食品衛生監視員として厚生労働省に推薦済み。	概ね達成
⑰ 食品衛生に関する講習会を開催します。	食品・生活衛生課	各保健所管内で食中毒予防や一般衛生管理に関する講習会を開催した。	概ね達成
⑱ 食品の流通及び販売過程での事業者の自主衛生管理を推進します。	食品・生活衛生課	チェーンストア、運送業者等を訪問して、届出制度について説明を行い、自主衛生管理の推進のための助言・指導を行った。	未達成
⑲ 「わかやまジビエ衛生管理ガイドライン」に基づき、ジビエ(野生鳥獣肉)の衛生管理について普及啓発します。	食品・生活衛生課	平成30年3月に開催し、4名が受講した。	達成
⑳ 「わかやま健康食品製造業者連絡協議会」の研修を開催し、製造業者の自主衛生管理を推進します。	食品・生活衛生課	健康食品による危害の未然防止、表示広告及び販売方法の適正化を目的として研修会を開催した。食品表示法の対応状況、誤表示防止の取組事例など、コンプライアンスのために取り組むべきポイントの説明を行った。	概ね達成
㉑ 学校給食関係者を対象に、衛生管理及び食物アレルギー対策や食育推進の研修を行います。	健康体育課	平成29年7月28日、和歌山市民会館において、研修会を行った。研修会の内容は「食中毒への予防について」の講演並びに県内の栄養教諭による実践発表を行い、大変好評であった。	達成
22 自主管理指導を推進するため、食品衛生指導員に助言等を行います。	食品・生活衛生課	指導員に対し一般衛生管理等の助言を行うことで、指導員が巡回指導する際に、食品関係事業者に衛生管理の徹底を働きかけた。	(達成)
23 わかやまジビエ処理施設衛生管理認証制度の普及推進を行います。	畜産課	ホームページや冊子を作成することにより、わかやまジビエ処理施設衛生管理認証制度の普及推進を実施した。	(達成)
㉒ 食品製造過程における問題点を指摘し、最適な改善策を指導します。	工業技術センター	充填機の洗浄と殺菌後の冷却速度について指導を行った。	未達成

目標管理項目		29年度	30年度	31年度	平成30年度取り組み予定
⑭ 食品衛生管理認定制度取組事業者の割合	目標値	—	—	100%	引き続き、取組の推進を行う。
	実績値	14%			
⑮ 講習会・研修会による普及啓発	目標値	—	—	100回	引き続き、事業者に対し講習会を実施していく。
	実績値	90回			
⑯ 指名食品衛生監視員数	目標値	—	—	22名以上	今年度においても同様の研修会を開催予定。
	実績値	18名			
⑰ 講習会参加人数	目標値	—	—	7,000人以上	引き続き、各保健所管内で食中毒予防や一般衛生管理に関する講習会を開催する
	実績値	6,392人			
⑱ 届出施設数(累計)	目標値	—	—	100施設	引き続き、運送業者等に対する助言・指導を行う。
	実績値	78施設			
⑲ ジビエ処理責任者のジビエ衛生管理講習会の受講	目標値	—	—	100%	引き続きガイドラインに基づく衛生管理講習会を開催する。
	実績値	100%			
⑳ アンケートで「有意義であった」とした人の割合	目標値	—	—	90%以上	引き続き健康食品による危害の未然防止、表示広告及び販売方法の適正化のために研修会を開催する。
	実績値	75%			
㉑ 学校給食管理指導者・栄養教諭等研修会及び学校給食衛生管理研修会参加者数	目標値	—	—	350人	今年度も7月24日に和歌山市民会館で研修会を開催する予定。
	実績値	375人			

22	食品衛生指導員の定期的な巡回指導	目標値				引き続き、指導員に対し一般衛生管理等の助言を行う。
		実績値				
23	ジビエの安全性の確保	目標値				引き続きホームページ、冊子により、わかやまジビエ処理認証施設衛生管理認証制度の普及推進を実施する。
		実績値				
⑳	改善策の指導により問題が解決した案件	目標値	—	—	4件	引き続き、衛生管理に関する指導を行う。
		実績値	3件			

**(1) 生産から流通・販売までの全ての過程においてHACCPの考え方に基づく衛生管理の普及推進
～消費時における衛生管理の推進～**

取組事項	担当課室	平成29年度取組み状況 (取組目標を設定したものは自己評価内容)			達成度 (自己評価)
25 食中毒予防に関する情報を「防災わかやまメール」、「食中毒テレフォンサービス」、パンフレット、ホームページなどを利用して啓発します。	食品・生活衛生課	防災メールを活用し、予め携帯メールに登録している県民に向けた食中毒注意報のメール配信を実施した。 また、県広報誌へ食中毒に関する記事を2回掲載した。			(達成)
㉔ 食中毒防止を推進するため、家庭での食品の適切な取扱いや正しい手洗い方法など、「家庭でできるHACCP」の啓発活動を行います。	食品・生活衛生課	県民に対して家庭での食品の適切な取扱いや正しい手洗い方法などに関する講習会を実施した。			達成

目標管理項目		29年度	30年度	31年度	平成30年度取組み予定
#	適切な情報提供の実施	目標値			引き続き、防災メールを活用し、食中毒注意報のメール配信を実施する。 また、県広報誌へ食中毒に関する記事を掲載する。
	実績値				
㉔	講習会等の参加人数	目標値		800人	引き続き県民に対して講習会を実施する。
	実績値	1,847人			

**(2) 監視・検査体制の強化
～食肉・食鳥肉の衛生確保～**

取組事項	担当課室	平成29年度取組み状況 (取組目標を設定したものは自己評価内容)			達成度 (自己評価)
㉗ と畜場、大規模食鳥処理場における衛生管理にHACCPを導入します。	食品・生活衛生課	立入調査による作業工程の確認や拭き取り検査による衛生管理状況および危害要因の把握などHACCP導入に向けた取組を行った。 また、施設関係者との協議により今後のスケジュールを確認した。			未達成
㉘ と畜検査や食鳥検査により、人と動物の共通感染症など獣畜の疾病を排除します。	食品・生活衛生課	獣医師が、牛及び鶏の全頭羽検査を実施し、人と動物の共通感染症を排除した。			達成
㉙ 食用の牛肉について、牛の月齢に応じた特定部位(頭部、脊柱、脊髓、回腸遠位部)の除去・焼却を徹底します。	食品・生活衛生課	と畜検査員が、と畜場で標準作業手順書に基づき確実に牛の特定部位が除去・廃棄されているかを確認した。			達成
㉚ と畜検査員が全ての牛について生体検査を実施し、24か月齢以上で神経症状が見られる等BSEが疑われる牛については、全てBSEスクリーニング検査を実施します。	食品・生活衛生課	と畜検査員が全ての牛について生体検査を実施した。なお24か月齢以上で神経症状が見られる等BSEが疑われる牛は確認されなかった。			達成

目標管理項目		29年度	30年度	31年度	平成30年度取組み予定
㉗	平成31年度までに、HACCPによる衛生管理を実施	目標値	—	—	HACCP導入のための7原則12手順に沿った取組ができるよう施設従事者を対象とした講習会を実施する。
	実績値	0施設		2施設	
㉘	と畜検査員・食鳥検査員による検査の徹底	目標値	—	—	引き続きと畜場検査や食鳥検査により、人と動物の共通感染症など獣畜の疾病を排除する。
	実績値	全羽、全頭			
㉙	特定部位の除去頭数	目標値	—	—	引き続き食用の牛肉について、牛の月齢に応じた特定部位(頭部、脊柱、脊髓、回腸遠位部)の除去・焼却を徹底する。
	実績値	全頭			
㉚	24か月齢以上で神経症状が見られる等BSEが疑われる牛の検査の徹底	目標値	—	—	全頭生体検査、BSEが疑われる牛についてはスクリーニング検査を実施します。
	実績値	全頭			

(2) 監視・検査体制の強化 ～食品営業施設の監視指導～

実施する取組	担当課室	平成29年度取り組み状況 (取組目標を設定したものは自己評価内容)	達成度 (自己評価)
① 毎年度、「食品衛生監視指導計画」を作成し、食品取扱施設の効果的・効率的な監視指導を行います。	食品・生活衛生課	食品衛生監視員が食品取扱施設の監視指導を実施し、監視率91.3%となった。	概ね達成
32 食品衛生監視指導計画及び結果をホームページで公表します。	食品・生活衛生課	計画及び結果を「食の安全・安心わかやま」ホームページで公表した。	(達成)
33 ノロウイルスによる食中毒を防止するため、監視指導や衛生講習会により啓発します。	食品・生活衛生課	講習会や監視指導時にノロウイルスによる食中毒予防パンフレットを用い、衛生的な手洗い方法、従事者健康状態の確認、加熱の徹底及び適切な汚物処理について指導した。また、県広報誌での啓発を行った。	(達成)
34 食中毒発生時には病因物質の疫学調査を行い、原因究明を徹底し、再発防止を図ります。	食品・生活衛生課	発生した食中毒について、疫学調査を行い原因を究明した。原因施設には、衛生教育を実施した。	(達成)
35 食中毒の発生しやすい時期や食品流通の大きい時期(夏期・秋期・年末)に集中監視を実施します。	食品・生活衛生課	夏期一斉取締り(7月)、食品衛生月間(8月)、秋の行楽期一斉監視(10月)及び年末一斉取締り(12月)に集中的に監視を実施した。	(達成)
① 学校給食施設の点検を行い、調理過程等における問題点について、協議や指導助言を行います。	健康体育課	有田川町立学校給食センター、北山村立北山小・中学校、串本町学校給食センターの3施設の点検を実施。施設が抱える課題や問題点等を挙げ、解決策等について協議を行った。	達成
37 HACCPを取り入れた衛生管理手法を、大量調理施設に対して普及します。	食品・生活衛生課	「大量調理施設衛生管理マニュアル」に基づき給食施設、弁当調理施設等のすべての大量調理施設の監視指導を実施した。	(達成)

目標管理項目		29年度	30年度	31年度	平成30年度取り組み予定
① 食品衛生監視指導計画の達成度	目標値	—	—	100%	今年度においても引き続き平成30年度和歌山県食品衛生監視指導計画に基づき監視指導を実施する。
	実績値	91.3%			
32 迅速な公表	目標値				今年度においても公表予定。
	実績値				
33 衛生的な手洗いの徹底指導	目標値				引き続き、講習会や監視指導時にノロウイルスについて指導する。また、県広報誌での啓発を行う。
	実績値				
34 食中毒原因等の情報共有	目標値				発生した際は、引き続き、原因究明及び衛生教育を実施する。
	実績値				
35 時期ごとに発生しやすい食中毒の重点監視	目標値				引き続き、集中的に監視を実施する。
	実績値				
① 現地指導施設数	目標値	—	—	3施設	今年度も県内3施設を点検する予定。点検・指導する際には近隣の施設にも集まっていたら、情報共有を図る。
	実績値	3施設			
37 監視指導時における普及指導の徹底	目標値				引き続き、監視指導を実施する。
	実績値				

(2) 監視・検査体制の強化 ～違法な食品等の流通監視～

実施する取組	担当課室	平成29年度取り組み状況 (取組目標を設定したものは自己評価内容)	達成度 (自己評価)
③⑧ 農業取締員による農業販売業者の指導体制を維持します。	農業環境・鳥獣害対策室	平成29年6月15日から7月14日にかけて実施した農業危害防止運動期間中に、農業販売店72店舗への立入検査を実施した。	達成
③⑨ 健康食品の買上げ調査を行い、安全性に問題がないか検査を行います。	食品・生活衛生課	県内製造の健康食品を対象に、栄養成分5項目、原材料由来の有害成分及びアレルギー成分等の検査を実施し、不良食品については改善指導を行った。	達成
④⑩ 食品の買上げ調査を行い、医薬品成分等が含まれていないか検査を行います。	業務課	今年度は国からの要望があり、内服ではなく外用(クリームやスプレー等)の製品を中心に購入したため、食品の買上げ数は1品目となった。	未達成

目標管理項目		29年度	30年度	31年度	平成30年度取り組み予定
③⑧ 無登録農業等の不適正資材の販売件数	目標値	—	—	0件	農業取締員による農業販売業者の指導体制を維持する。
	実績値	0件			
③⑨ 健康食品の検査検体数	目標値	—	—	20検体以上	引き続き健康食品の検査を行う。
	実績値	22検体			
④⑩ 買上げ調査品目数	目標値	—	—	8品目	今年度も、新たに健康食品を買上げ、成分分析検査を実施する予定だが、国からの要望によって、外用の製品を中心に購入する可能性あり。
	実績値	1品目			

(2) 監視・検査体制の強化 ～流通食品の検査～

実施する取組	担当課室	平成29年度取り組み状況 (取組目標を設定したものは自己評価内容)	達成度 (自己評価)
④① 流通する食品について、残留農薬や食品添加物等の検査を実施します。	食品・生活衛生課	食品衛生監視指導計画に基づき、県内産食品を中心に残留農薬、食品添加物及び病原微生物等の検査を実施した。	達成
42 食品検査の実施計画及び結果をホームページで公開します。	食品・生活衛生課	食品衛生監視指導計画に食品検査の実施計画を定め、ホームページで公開した。 また、結果を検査終了後に迅速にホームページで公開した。	(達成)
④③ 当該年度和歌山県食品衛生監視指導計画に基づく検査を完全実施します。また、緊急食品事故に適切に対応を行います。	環境衛生研究センター	必要とされる延べ検査項目数(26,046項目)に対し、143%(37,283項目)の検査を実施した。 また、食中毒等発生時の検査についても迅速に対応できた。	達成

目標管理項目		29年度	30年度	31年度	平成30年度取り組み予定
④① 食品の検査検体数	目標値	—	—	1,200件以上	引き続き食品衛生監視指導計画に基づき食品検査を行う。
	実績値	1,202件			
42 迅速な公表	目標値				引き続きホームページに公開する。
	実績値				
④③ 定められた必要検査の100%実施	目標値	—	—	100%	和歌山県食品衛生監視指導計画に基づく検査を100%実施します。 また、緊急食品事故に適切に対応を行います。
	実績値	143%			

(2) 監視・検査体制の強化 ～分析技術の向上と効率化～

実施する取組	担当課室	平成29年度取り組み状況 (取組目標を設定したものは自己評価内容)	達成度 (自己評価)
44 食品関係事業者からの依頼に基づき、受託試験・研究を行います。	環境衛生研究センター	食品関係事業者からの依頼による試験を実施できた。また、2機関と受託研究締結を行い完結した。	(達成)
④5 食品関係事業者からの依頼に基づき、受託試験・研究を行います。	工業技術センター	微生物試験、栄養成分および異物試験を行った。	概ね達成
④6 食品の賞味期限の設定に伴う保存試験や微生物試験を行います。	工業技術センター	ハチミツ、ジャム、果実加工品や菓子などの微生物試験を行った。	未達成

目標管理項目		29年度	30年度	31年度	平成30年度取り組み予定	
44	随時相談受付	目標値	/		食品関係事業者からの依頼に基づき、受託試験・研究を行います。	
		実績値				
④5	受託試験件数	目標値	—	—	90件	引き続き、受託試験を行う。
		実績値	84件			
④6	受託試験件数	目標値	—	—	8件	引き続き、微生物試験等行っていく。
		実績値	6件			

(3) 健康危機管理の強化

実施する取組	担当課室	平成29年度取り組み状況 (取組目標を設定したものは自己評価内容)	達成度 (自己評価)
④7 健康危機管理体制強化のため、健康危機管理担当者会議を開催するとともに、他の研修会等へ参加します。	健康推進課	平成29年4月、10月、平成30年1月にそれぞれ健康危機管理に関する会議を開催した。	達成
48 「和歌山県危機管理計画」に基づき、食に起因する危険事象への個別対応マニュアルの作成や研修など、関係課室が実施する危機管理への取組について、円滑な実施を支援します。	危機管理・消防課	食に起因する危険事象へのマニュアルは既に策定済みであり、各マニュアルを見直す必要もなかった。	—
49 県民の生命、健康の安全に関する危機管理の基本的枠組みである「健康危機管理基本指針」を適宜見直し、整備します。	健康推進課	見直しする必要のある内容はありませんでした。	—
50 毒物に起因する健康危機に対し、事故等の拡大を防止するため、迅速かつ適切な対応を図ります。	環境生活総務課	平成29年度は当該事象が発生せず、事故等の拡大防止のための毒物検査検討会(食品への混入又は混入の疑いのある毒物等による事件に関し、保健所長から要請があった場合に設置し、協議する。)は未開催であった。	—
51 「食中毒調査マニュアル」を必要に応じ見直し、整備します。	食品・生活衛生課	見直しに向けて情報収集を行った。	—
52 消費者庁等の関係省庁、全国食品安全自治ネットワーク、食品安全委員会等との連携を強化します。	食品・生活衛生課	食品安全委員会の研修会に参加することにより、全国の行政機関との情報共有を行った。	(達成)
53 意図的な異物混入を防御するため、食品関係事業者に講習会や監視指導を通じて、従事者への教育の徹底等について指導を行います。	食品・生活衛生課	意図的な異物混入を防御するため、講習会や監視指導時を通じて、指導した。	(達成)
54 意図的な異物混入などにより、健康被害の発生またはその恐れがある場合、速やかに情報提供を行い県民へ注意喚起を行います。	食品・生活衛生課	注意喚起事例がなかった。	—
55 「わかやま健康食品連絡協議会」を開催し、健康食品の苦情事例に関する情報交換を行います。	食品・生活衛生課	いわゆる健康食品による健康被害の発生がなかったため、会の開催はなし。健康食品に関する情報を共有した。	(達成)

目標管理項目		29年度	30年度	31年度	平成30年度取り組み予定
④6 健康危機管理担当者会議の開催回数	目標値	—	—	3回	担当者会議を開催することで、健康危機管理体制の強化を図るとともに、危機発生時には適切に対応します。また、健康危機管理に関する各種研修会に出席します。
	実績値	3回			
47 適切な支援	目標値				「和歌山県危機管理計画」に基づき、食に起因する危険事象への個別対応マニュアルの見直しや研修など、関係課室が実施する危機管理への取組について、必要な支援を実施します。
	実績値				
48 迅速な公表	目標値				県民の生命、健康の安全に関する危機管理の基本的枠組みである「健康危機管理基本指針」を適宜見直し、整備します。
	実績値				
49 毒物事故が発生した場合の「毒物検査検討会」の迅速な設置	目標値				毒物事故が発生した際は「毒物検査検討会」を迅速に開催する。
	実績値				
50 国の通知や新しい知見への迅速な対応	目標値				平成30年度中での改訂を実施予定。
	実績値				
51 迅速な情報の共有	目標値				引き続き、食品安全委員会の研修会に参加することにより、全国の行政機関との情報共有を行っていく。
	実績値				
52 食品事業者への適切な指導の実施	目標値				引き継ぎ指導を行う。
	実績値				
53 迅速な公表	目標値				事例があれば迅速に注意喚起を行う。
	実績値				
54 健康被害発生時の迅速な情報共有	目標値				引き続き健康食品の苦情事例に対する情報交換を行う。
	実績値				